

区分

A 中小都市、過疎地など  
【人口10万人未満の自治体】

空間的交通空白の解消

他分野による交通事業の活用

観光・まちづくり  
×交通

**対象地域**

- 地域：北海道網走市
- 人口：35,759人
- 世帯数：17,253世帯
- 高齢化率：31.6%
- 面積：471.00km<sup>2</sup>

**背景・お困りごと**

- 網走周辺は観光資源が分散し、公共交通機関で来訪する観光客に対して二次交通の利便性不足が課題
- 令和2年から運行している「どこバス」は公共交通として市民向けの設計のため、詳細な日時指定ができないなど観光客に不便な部分が多い、観光繁忙期には地域住民の利便性の維持も必要
- 令和5年度の人材育成事業をきっかけに、網走バスが「どこバス」の観光客特化について検討が始まった

**実施内容**

観光客向けに網走市内および近郊の観光施設や宿泊施設を自由に移動できるAIオンデマンド交通「どこバス+plus」を運行

**概要**

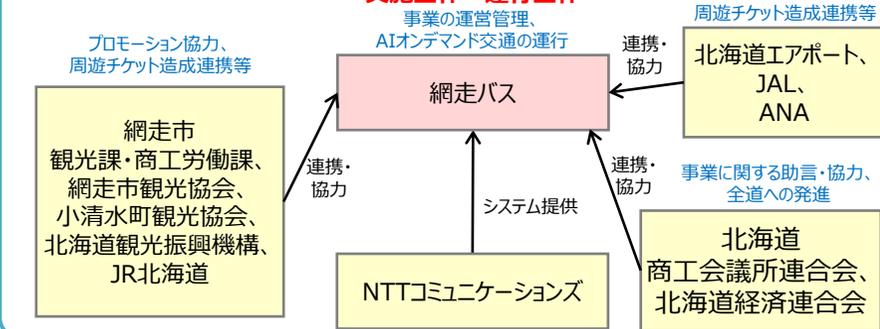
- モード：AIオンデマンド交通 (道路運送法第4条許可)
- 予約方法：電話・アプリ
- 料金：3,500円/24時間乗降自由 (セット商品の場合は4,300円～6,500円/24時間乗降自由)



**重要ポイント**

- 女満別空港線、指定の飲食店で利用可能なお食事券、オホーツク流氷館の入場券をそれぞれセットにした商品も設定することで、利用者単価の向上と観光消費を促すことを狙った
- 地元タクシー会社とサービスや乗降場所（30か所）について協議を行ったが、運賃を安価にしないことですみわけを行い、料金設定を踏まえ合意を得られた
- 市民向けの「どこバス」の運行時間が9時～16時であるのに対して、「どこバス+plus」は観光客の視点に立って8時～17時とすることで、利便性向上を図った
- 交通事業は人手不足等により採算性が悪化しやすいため、他分野との連携により新しい収益源確保に取り組むことを意識した

**意思決定・実施主体**



**運行実績・成果**

- 運行期間：2024/9/1 ～ 2024/11/30
- 利用者数：390名 (235運行)
- 平均乗合人数：1.66人/1運行

収入	429,100円 (内訳 運賃収入:429,100円)
支出	10,600,000円 (車両購入費・改造費、システム導入費、等)
ランニングコスト	720,000円 (運行費用)
損益	▲10,890,900円※網走バスが負担 (共創・MaaS実証プロジェクトを活用)

- 成果**
- 従来、タクシー（1時間）もしくはレンタカーでしか行けない能取岬が乗降場所として多く選ばれた
  - 期間中104枚のデジタルチケットを販売、うち36枚は観光施設、飲食店とのセット商品として各施設へ送客したため、本事業が地域の観光消費につながったと考えている
  - 定性的ではあるが、本事業を実施したことで観光消費額が1.2～1.3倍増えたと考えている

**今後の事業展開**

<今後の事業展開時の運行における根拠法令（予定）：道路運送法第4条許可>

- 本実証事業の結果をもとに実装に向けた改善策の検討を行うとともに、運賃収入以外の収入確保に向けて、観光協会と連携して景勝地で消費を促す仕掛けや観光施設等からの送客手数料徴収の可能性について検討を行う